

## 講師・パネリスト紹介

### 長山淳哉（ながやまじゅんや）

1947年高知県生まれ。九州大学大学院医学研究科博士課程終了。  
米国・国立環境保健研究所生殖発生毒性学部門博士研究員を経て、  
現在、九州大学大学院医学研究員准教授。医学博士。

大学院時代ライフワークの原点ともなったカネミ油症の原因物質  
PCDFs（ダイベンゾフラン、ダイオキシン類の一種）を発見。以来、ダイ  
オキシン研究の第一人者として活躍を続けている。専門は環境分子疫学、  
環境遺伝毒性学。

主な著書に『しのびよるダイオキシン汚染』（講談社）、

『母体汚染と胎児・乳児』（ニュートンプレス）、『胎児からの報告』  
（小学館）『コーラベイビー』（西日本新聞社）など。

英文論文 114 編、国際学会発表 62 回と

国際的にも活躍している。

## 講師・パネリスト紹介

### 池田こみち

東京都出身。聖心女子大学卒。東京大学医科学研究所、ローマクラ  
ブ日本事務局などを経て現在、環境総合研究所副所長。環境行政フォー  
ラム副代表。元長野県中信地区廃棄物処理施設検討委員会委員、前  
長野県環境審議会委員、前長野県総合計画審議会委員、前滋賀県産廃  
処分場対策検討委員会委員、市民参加による松葉ダイオキシン調査実  
行委員会事務局長。国際市民参加学会(IAP2)、環境ホルモン学会会員。  
国際ダイオキシン会議に9本の研究成果を発表など。

#### 【主な著作】

『ローマンの技術文明論』（コリンローマン著 共訳 学陽書房）、  
『台所からの地球環境』（環境総合研究所編 共著 ぎょうせい）、『新  
台所からの地球環境』（環境総合研究所 共著 ぎょうせい）、『ダイ  
オキシン汚染』（共著 法研）、『もっと知りたい 環境ホルモンとダ  
イオキシン』（環境総合研究所 共著 ぎょうせい）、『みんなの松葉  
ダイオキシン調査』（合同出版）